

## 令和8年度に向けた学校改善の取組について

本校では、児童・保護者・地域アンケートおよび学校関係者評価委員会の報告をもとに、教育活動の成果と課題を分析し、次年度に向けた改善策をまとめました。

### 1 本年度の主な成果

本年度は、多くの項目で高い評価を得ることができました。

学習面では、「授業で話し合いや発表の機会がある」は93.2%、「課題について自分や友達と考える時間がある」は91.3%と、主体的・対話的な学びに関する評価が非常に高い結果となりました。また、「先生はていねいに指導してくれる」は91.7%、「先生に注意されたことは理解できる」は92.4%と、教員の指導に対する信頼の高さが見られます。

学校生活においても、「学校行事は楽しい」は89.8%、「学校生活は楽しい」は91.7%と、子どもたちの満足度は高い水準にあります。さらに、「自分からあいさつをしている」は89.3%と、基本的な生活習慣も定着しています。

これらの結果から、本校の教育活動が安定して成果を上げていることが確認できました。

### 2 明らかになった課題

#### (1) 教育活動の「見える化」

ICT活用については、児童の肯定的評価が86.5%であるのに対し、保護者は63.4%にとどまっています。また、「将来について考える授業」については、保護者の肯定的評価が43.5%と低い状況です。学校での取組が十分に保護者へ伝わっていないことが課題です。

#### (2) 主体的な学びと意欲の向上

「学ぶことが楽しい」と感じている児童は約9割と高いものの、「目標をもって努力している」などの項目ではばらつきが見られます。また、「自分にはよいところがあると思う」は70.4%であり、一定の成果は見られるものの、さらなる向上が求められます。

#### (3) 家庭との連携

ICTのルールについては、児童の肯定的評価が85.9%であるのに対し、保護者は59.5%となっており、学校と家庭での認識に差が見られます。

また、「家庭で自主的に学習している」とする保護者の評価も十分とは言えず、家庭学習の定着に課題があります。

#### (4) 小中連携・キャリア教育

中学校に関する情報提供については、学年や時期によって認識に差が見られ、継続的・計画的な取組の必要性が示されています。

### 3 次年度に向けた主な改善策

これらの課題を踏まえ、次年度は以下の取組を重点的に進めます。

#### (1) 教育活動の積極的な発信

授業や ICT 活用の様子を、学校だよりやホームページ等で継続的に発信します。特に、保護者の評価が低かったキャリア教育については、取組内容を分かりやすく伝えていきます。

#### (2) 主体的に学ぶ力の育成

学習のめあてと振り返りを重視し、子ども自身が成長を実感できる授業を推進します。自ら考え、選択する場面を増やし、「学ぶことが楽しい」と感じる児童のさらなる増加を目指します。

#### (3) 家庭と連携した教育の推進

ICT の活用ルールや家庭学習の進め方について、学校と家庭で共通理解を図ります。具体的な学習の目安や活用方法を示し、家庭での学びを支援します。ネットリテラシー教育を全学年で行い、ipad やネット活用における注意点も含めて、家庭と連携しながらすすめていきます。

#### (4) 小中連携の充実

中学校との交流活動や情報提供を計画的に実施し、子どもたちが将来の見通しをもてるよう支援します。また、その内容を保護者にも丁寧に発信していきます。

#### (5) 自己肯定感の育成

「自分にはよいところがある」と感じる児童（現在 70.4%）のさらなる向上を目指し、縦割り活動や委員会活動など、児童が活躍する機会を充実させます。

### 4 今後に向けて

本校では、「子どもも大人も笑顔あふれる学校」の実現に向け、教育活動の質の向上とともに、その内容を分かりやすく発信していくことを重視してまいります。今回の評価結果を真摯に受け止め、強みを生かしながら課題の改善に組織的に取り組んでまいります。

今後も、保護者・地域の皆様と連携しながら、よりよい学校づくりを進めてまいります。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。